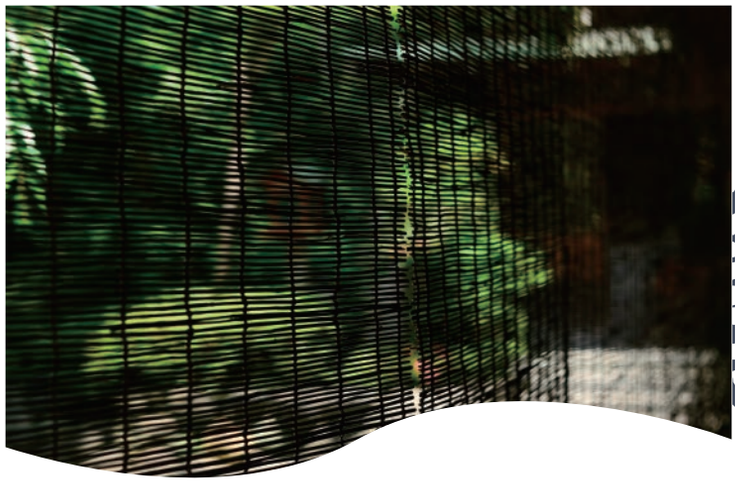


気温３５度を超えると猛暑日とよばれますが
近頃の夏は 猛暑日が珍しいことではなくなってきました。
カラダを動かすことによって体温が上昇する
スポーツなどの活動時だけでなく
日々の暮らしや働くときからカラダが涼しく感じる
仕様・機能が夏の衣服には必要になってきました。
いかに涼をえるか。

その答えは日本の住まいで
古来より使われている道具にありました。
竹や葦などを編んでつくられる「すだれ（簾）」です。
編んだ竹や葦の隙間から風を通して室内に風をとりこみ
夏の強い陽射がもたらす紫外線をさえぎりやわらげます。
わたしたちが快適かつ健康的に活動をするために
日本古来の住まいの道具「すだれ」は
気流や紫外線といった熱環境要素をうまく味方につけています。

陽をよけて風をカラダへと通して自然の涼をえる
日本の気候にあわせて住まいに根づく道具「すだれ」に
ならい高通気ファブリック 「爽多」 ができました。



爽多
風を喰み 陽をよけん

TAフロンティア株式会社



風を喰み 陽をよけん

爽多

すだれから発想した高通気性ファブリック

TEIJIN

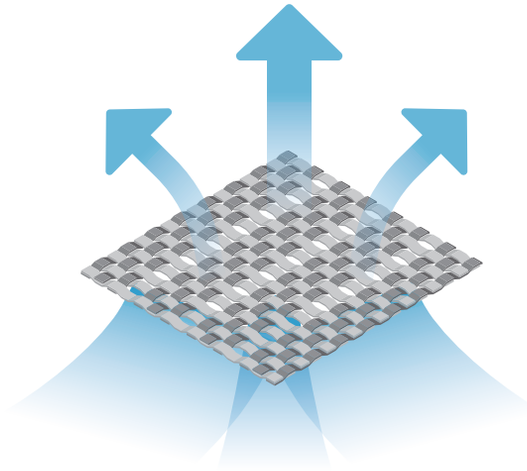
特徴

織物生地は、経糸（たていと）と緯糸（よこいと）が交互に織り交ぜられて、直角に交差することで生地の基本的な構造が成り立っています。

構造体設計技術・糸の技術・生地の加工技術を組み合わせることで、簾（すだれ）のように風を通しつつ紫外線（UV）を遮る素材が生まれました。

簾のような高い通気性とＵＶを遮る生地を纏う。
爽多は、まさに「簾を着ることができれば」という想いから生まれました。







BREATHABLE

涼感をうみだす高通気性

通気度 50cm³/(cm²·s) 以上 ＊JIS L 1096 A法 準拠

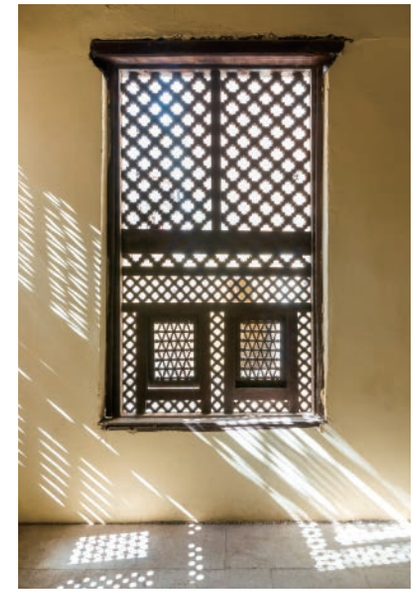


UV PROTECTION

紫外線を和らげる UV カット

紫外線遮蔽率 85% 以上 ＊JIS L 1925 準拠

＜すだれ構造の強み＞



「すだれ」は、日本の伝統的な日除けや仕切りとして、古くから細く割った葦や竹を糸で編み重ねて作られてきました。この語源は「簀（す）」と「垂れ（だれ）」に由来し、「簀」は割り竹を並べて編んだものを指します。すだれの機能は多岐にわたり、日よけ、プライバシーの保護、虫除けとしての実用性に富んでおり、その歴史は「万葉集」にも言及されるほど古く、奈良時代の住居には既に取り入れられていました。
また、すだれと同様の概念は中東のイスラム建築にもあり、木製の鮮やかな格子窓「マシュラビーヤ」にも見られます。

Design Yasushi Miyoshi (Obocoy Inc.), Haruka Furuichi (HARE KARE) ／ Text & Plan Masatsugu Hayashi (bridge884)